

ヒップホップの要素を用いた授業開発に関する研究

最終更新日：2025年12月8日
教学共創マネジメントセンター
特任講師
馬場 洋志

キーワード

・ヒップホップ型教育 ・ヒップホップ ・ラップ ・授業開発 ・教育方法

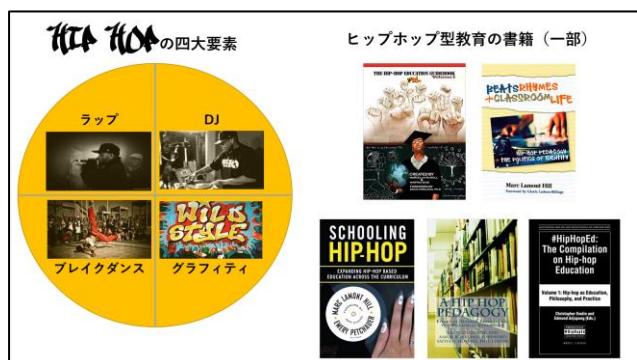
研究シーズの説明（私は、このような研究に取り組んでいます。）

＜ヒップホップ型教育（HHBE）とは＞

ヒップホップ型教育（HHBE）とは、**ヒップホップの要素を用いて授業内容を教えるという教育手法**で、2000年代初頭からアメリカで取り組まれ始め、実践者が増加しています。

ヒップホップは音楽のジャンルや、ダンスの一形態と誤解されがちですが、**ラップ、DJ、ブレイクダンス、グラフィティ（壁画）の四大要素から構成される「文化」**です。また、ヒップホップはアフリカ系・ヒスパニック系アメリカ人がマジョリティを占めるため、HHBEも「有色人種のため」の教育手法と誤解されるかもしれません、**ヒップホップは複数の国の文化に適合し、地域事情に合った形でローカライズされてきているため、HHBEは人種や民族に関係なく適応可能である**とされています。

サッカーや野球などの欧米由来のスポーツが日本の日常に浸透したように、**ヒップホップも日本の若者の日常に当たり前のように存在し、だからこそ、若者の興味関心を引くための大きな力となり得る**と考え、私はHHBEに取り組んでいます



＜ヒップホップ型教育の例: Science Genius＞

一番著名的な実践：Science Genius

理科に興味・関心を持てない高校生に、ラップを通じて、同教科への興味・やる気を向上させる取組。
生徒は、理科に関連する用語を用いてラップの歌詞を書き、他の生徒と競い合う。
用語の意味を理解し、より上質なラップの歌詞を書くために、生徒が勉強するようになるという仕掛け。

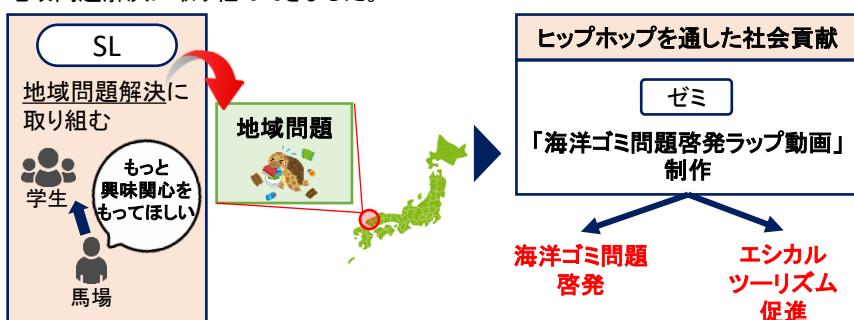


成果の応用可能性（私の活動の成果は、このような分野にこのように貢献することができます。）

これまでの成果

HHBEの授業を開発・実践してきました。私の専門はサービス・ラーニング（SL）であり、SLは地域の問題解決に取り組むという特徴があります。

実践を行っていた前任大学は下関に位置しており、その地域の問題＝海洋ゴミ問題にもっと興味関心をもってもらうため、「**ヒップホップを通した社会貢献**」というテーマのもと、地域問題解決に取り組んできました。



応用の可能性

ヒップホップの要素を用いた授業開発支援

ヒップホップの要素を用いた授業開発支援

これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

＜ラップ動画＞

2023年度：エシカルツーリズム促進

2024年度：海洋ゴミ啓発

2025年度：海洋ゴミ啓発

＜メディア＞

取材頂いた動画などを見て頂くと、取組の意図が分かりやすいと思います。

→ テレビ山口

→ 山口朝日放送
(その他)

→ ネットメディア記事
読売新聞オンライン

＜論文＞

総合的な学習の時間における新たな教育実践～
ヒップホップ型教育～

教育方法としてのヒップホップ～Hip Hop Based Education～

クラウドファンディングをツールとする サービス・ラーニング実践の技法と課題